

皆さんおはようございます。

本日より、平戸市長として市政を担わせていただくことになりました、松尾有嗣です。どうぞよろしくお願いいたします。

本日お集まりの議員各位におかれましては、ご臨席を賜り、誠にありがとうございます。また、改めまして、この度のご当選をお祝い申し上げます。今後ともご指導ご助言くださいますようお願い申し上げます。

私は、まず何より、この歴史と自然、そして人の温かさに包まれたふるさと「平戸」で、皆さんと共にまちの未来をつくる仕事ができることに、心から感謝を申し上げます。

私はこれまで国会議員秘書として、国政の最前線に立ち、地方の声を政策に反映させる仕事をしてきました。国の制度をつくり、予算を動かし、地方の課題に寄り添いながら、「現場の声が届く政治」を模索し続けた年月でした。

しかしその間、心の中にいつもあったのは、ふるさと・平戸の姿です。海に囲まれた島々、自然の恵み、そして人の優しさ。かつて国際交流の玄関口として栄えたこのまちが、いま人口減少や産業の停滞といった課題に直面している現実を、ずっと胸の奥で見つめてきました。

私は思いました。「このままふるさとが静かに衰えていくのを見てはいられない。いまこそ、自分の持つすべてを故郷に捧げるときだ」と。その思いで、28年の国政の経験と人脈をすべて持ち帰り、市長としてこの地に立たせていただきました。

「未来をひらく！きずなを結ぶ！平戸！！」

私は選挙の際、このキャッチフレーズを掲げました。この言葉には、二つの強い思いを込めています。一つは「挑戦」、もう一つは「つながり」です。私たちは、変化を恐れず挑戦しなければなりません。そして、市民と市職員、地域と行政、産業と教育、そのすべてがつながり、力を合わせていくことでこそ、平戸の未来は切り開かれます。

私は、市長として“現場主義”を貫きます。机上の空論ではなく、現場の

声に耳を傾け、職員とともに汗を流しながら政策をつくっていきます。市役所は「市民にとって最も信頼できるパートナー」であるために、皆さんと共に、挑戦と信頼の市政を築いていきたいと思っています。

行政の現場では、法律や制度、財政の制約など、「できない理由」が数多く存在します。しかし私は、28 年、そうした壁を前にしても「どうすればできるか」を考え、形にしてきました。いま平戸に必要なのは、「無理だ」とあきらめることなく、「どうすれば実現できるか」を探し続ける組織の力です。一人の発想、一人の声が、まちの未来を動かします。

「これは難しい」と思ったときこそ、職員の皆さんの知恵と情熱が試される時です。前例がないなら、前例をつくれればいい。失敗を恐れず、挑戦を重ねるチームでありたいと思っています。そして挑戦する職員を、私は全力でサポートします。挑戦を恐れず動いた人が、次の一步を踏み出せる環境をつくる。それが、私の責任です。

私は、市役所の主役は市長ではなく、「職員の皆さん」だと思っています。皆さんが市民一人ひとりの声を受け止め、支え、時に励ましながら、まちの暮らしをこれまで守ってきました。

私は皆さんを「部下」ではなく「仲間」として見ています。市長室は常に開かれています。どうか遠慮なく、現場の課題や提案を今後届けてください。現場で感じた違和感、改善のアイデアなど、それこそが市政の原動力になるのです。

これからの時代、行政には“前向きな想像力”が求められます。「言われたことをこなす行政」から、「自ら考え、動く行政」へ。私はその先頭に立ち、皆さんとともに風通しの良い職場、誇りを持てる組織をつくっていきます。

市民に信頼される市役所であるためには、まず職員が仕事に誇りとやりがいを感じていなければなりません。皆さんが安心して働けるよう、人事制度の見直し、働き方改革、キャリア支援などにも取り組んでいきます。

ここでいくつか私が掲げた政策について述べたいと思います。

平戸の原点は、「海・山・大地」です。農業も、漁業も、畜産も、林業も、

この土地の自然と人々の誇りが支えてきました。

私は、スマート農業の導入や特産品のブランド化、販路拡大などを進め、「稼げる一次産業」への転換を図ります。若者や女性が夢を持ってこの産業に関わり続けられる仕組みを、皆さんとともに作りたいたいと考えています。そのためには、市役所が産業の伴走者であることが必要です。

現場の職員が一次産業の生産者と一緒に課題を考え、解決策を形にする、そうした行政こそ、これからの地方自治の姿だと思っています。

人口減少という現実を、悲観ではなく希望に変えていきましょう。「減る」からこそ「選ばれるまち」をつくるチャンスです。

空き家を活かした移住促進、子育て世代への支援、テレワークなどの環境整備。こうした取り組みの先にあるのは、「ここに住んでよかった」という一人ひとりの市民の笑顔です。その笑顔を増やすために、市民に寄り添う行政でありたい。「市民、そして人が主役のまちづくり」を皆さんとともに進めていきたいと思っています。

私は「正確に、誠実にスピード感をもって」を市政運営の基本と考えています。市民の信頼は、一朝一夕では得られません。しかし、誠実に向き合い、言葉と行動で示せば、必ず信頼は積み重なっていきます。私は、タウンミーティングや若者会議を通じて、市民の声を直接聞き、市政に反映させていきます。そして、SNSなどを活用し、行政の動きを分かりやすく伝える「見える行政」を進めていきます。

職員の皆さんにも、市民の声に耳を傾け、市政の最前線に立つ一人としての誇りを持ってほしいと思います。

「飲水思源」、これは私の座右の銘で、水を飲むとき、その源を思うという意味です。いま私たちがここに立っているのは、先人たちの努力、市民の支えがあったからです。この平戸のまちは、先人たちが築いた知恵と情熱の結晶です。その恩に報いるためにも、私たちは今、次の世代のために働かなければなりません。

皆さんの仕事は、日々の小さな積み重ねの中に、大きな意味があります。一枚の申請書、一本の電話、一つの現場確認、そのすべてが、市民の生活と

平戸の未来を支えています。

どうか、自信と誇りをもって、胸を張ってこれからも職務にあたってください。

結びに、共に前へ、共に未来へ

平戸には、海の輝き、山の緑、そして人のぬくもりがあります。そして何より、「可能性」があります。

私たちは今、新しい平戸をつくるスタートラインに立っています。どうか今日という日を、その第一歩にしてください。

市長一人では何もできません。しかし、職員一人ひとりの知恵と力が合わされば、どんな壁も乗り越えられます。皆さんの力を、私は信じています。

「未来をひらく！きずなを結ぶ！平戸！！」

この言葉の通り、皆さんとともに“誇れる平戸、選ばれる平戸”を必ず実現してみせます。共に前へ、共に未来へ向かって取り組んでまいりましょう。

どうぞこれから、よろしくお願いします。

本日はありがとうございました。